

# 令和4年度 第1回熊本市小中一貫教育懇談会議事録

日時：令和4年(2022年)7月25日(月)  
14:00~15:30

場所：オンラインによる会議

## ○議事録

- 1 開会
- 2 教育委員会事務局挨拶
- 3 関係者紹介
- 4 懇談会趣旨説明
- 5 議事 協議 本市の小中一貫教育の取組について  
(1) 事務局説明 本市の小中一貫教育について  
(2) 意見交換 特色ある取組(小中一貫カリキュラム)について

古賀座長	事務局の説明について確認等があれば、ご質問をお願いします。 それでは、小中一貫カリキュラムについて、ご意見ををお願いします。
小田委員	令和元年に新たに小中一貫校としてスタートし、小中学校お互いの乗り入れ授業や子どもたちの交流など連携を進めてきた。さらに今年度から、総合的な学習の時間を中心に、地域の願いや保護者の願いをもとに、富合の地域の良さを子どもたちが学び、将来、富合のまちを考え・支えていく子どもの育成を目指しているところである。小学1年生から中学3年生までの総合的な学習の時間の探究活動を中心に培っていききたい。
榎木委員	視察で伺った20年以上小中一貫教育に取り組んでいる品川区立伊藤学園では、小学校1年生から9年生までが、日常の中に一緒にいる。そこで、小学校と中学校の先生たちの意識が共同体としての意識となっている。小学校の授業改善や中学校の生徒指導的な視点が互いの学校に活かされていた。子どもたちのスタートとゴールが見えているから、先生たちの意識も変わってくるようであった。
神吉委員	江原中学校区は、本荘小、春竹小、江原中の3校である。 校長先生から、小中一貫校になる目的、取組についての話を伺っている。保護者の立場からは、何か変わったという実感は今のところない。 先生方は、授業参観や教育全般について話し合っているとのことである。PTAとして何ができるのかを考えていく必要がある。
出田委員	本校は令和元年度から小中一貫校となった。乗り入れ授業や中学生が算数の指導に来てくれ、小中の交流があっている。また、14回続いている合同運動会では、小学1年生から中学3年生の全員リレーを順々に走る姿を見て、子どもたちの成長を目の当たりにすることができ感動している。月1回の一斉登校や地域学習の夏目漱石の草枕の俳句づくりなどを通して、みんな仲良くやっている。PTAの運営としては、広報委員は小中合同で行うこととした。
古賀座長	以上お2人から、保護者の立場からのご意見をいただいた。
松島委員	富合の小中一貫カリキュラムでは、総合的な学習の時間が一番左列にあり、小中の交流活動という列がもう1つある。この交流活動は、総合的な学習の時間内の交流活動なのか。 小中一貫の1つの魅力として感じているのは、新教科を設定できるというこ

	と。目的がはっきりしている朝自習や業間の時間でやっている取組を1つの教科にまとめ、プラスアルファで実施していた部分が教科としてやることができるのであれば、子どもも先生方も余裕が生まれるのではないか。
小田委員	小中の交流活動は、一部は総合で、一部は行事である。
松島委員	新教科の可能性・よい面として、授業外でカウントしている行事を授業の中に取り込むことで、他のことができたり、ゆとりができたりすることがある。小中一貫カリキュラムを作成したのであれば、一貫校の旨みを意識して取り組んでいただければよいと思う。
古賀座長	富合中学校区は、最初は内閣府の教育特例区であったから、前の学習指導要領で言語活動の充実をキーワードにして新設教科「国際科」、「生き方創造科」を作った。その当時は、外国語活動・外国語が充実するという保護者の希望や期待感もあった。保護者の期待や子どもの意欲をどのように新教科に繋げまとめていくのが鍵であろう。
楳木委員	特例として活用しやすいのは、新教科の設定、乗り入れ授業、学年間を超えたカリキュラムの編成だろう。 一方、新教科設定に踏み出せないでいる理由は、教科書の問題と評価だろう。最初、芳野中学校区が小中一貫校になる時にも、情報を核とした新教科を設定してはどうかという話になった。しかし、最後に、評価基準の話になり、総合の中で実施することとなった。 品川の伊藤学園では、小学5年生と中学1年生と一緒に集団宿泊の事前学習を行っていた。その中で、縦のつながりができ、自尊感情が高まる。サポートしてもらっていた子が、数年後にはサポートする立場になる。そして、先生の負担も減る。富合で実施している中2の子が小3の子に勉強を教える交流学习も同じようなものである。
千田委員	地域のひとり暮らしの高齢者の方々に中学生が育てた苗をプレゼントした。小学生も一緒に手紙を書き、民生委員さんと一緒に渡すことができた。 小中の合同運動会を実施しようと小中合同の会議を行い、プログラム内容や順番など議論していったが、コロナ禍で実施には至っていない。小中一貫校として、教育を実施していくためには日頃から情報共有していくことが大切であると痛感している。本中学校区は、乗り入れ授業を、図画工作と家庭で実施している。子どもたちの様子が入学前からわかり、互いに良い。
西川委員	江原中学校区の3校では、昨年度9年間の新しいカリキュラムを作り上げ、実践しているところである。本中学校区は、人権教育を中心として3校ともに目指す子どもの姿を統一している。同じ教育目標を学校教育目標の中に設定しており、どの学校でも子どもの自尊感情を高めようと取り組んでいるところである。カリキュラムについては、各学年で重なっている内容をうまく組み合わせると余剰ができ、新たな問題解決のための取組ができるようになると思う。今後このような取組を家庭・保護者の方々に伝えていく工夫も必要である。
梅田委員	本中学校区は、本市のCグループである。秋津小学校からは、2つの中学校に進学する。2つの中学校区それぞれの校長会や教務主任会に参加して、情報交換をしているところである。 今回参加して、各小中学校の教育目標を確認することの大切さや、総合的な

古賀委員	<p>学習の時間では各小中学校で、どのような地域素材を題材として活用しているかを知ることが大切であると感じた。</p> <p>本校の進学する2中学校区では、共通実践事項として掃除の仕方がある。今後は、各行事や集団宿泊の事前学習についても共通して取り組むことができれば良いと感じた。</p> <p>令和3年度から一貫校となった。共通実践としては、学校の状況から子どもたちのコミュニケーション能力を高めようということからグループアプローチに取り組んでいる。もう1点は、高学年の一部教科担任制を実施しており、中学校に進学する際、比較的スムーズにスタートできているようである。</p> <p>小中合同の研修会を実施し、小中の先生が互いの顔を知ることができ、交流の1つのきっかけになっている。今後は、グループアプローチの取組を活かし、各教科の対話的な学びにつなげていく部分をカリキュラムに整理していきたい。</p>
屋代委員	<p>本校は、令和5年度から小中一貫校に移行する予定である。令和3年度は、楠中学校区はタブレット活用の研究モデル校であり、その内容をもとに、小中一貫カリキュラムを作成している。スキルの部分を2小学校で育成し、それを中学校につなげていく形をとった。</p> <p>乗り入れ授業など、小学校の先生と中学校の先生が交流し始めると、さらにアイデアが出てくるだろうと思う。</p>
田口委員	<p>中1ギャップの問題を考えるのであれば、どのように子どもたちを育てていくのかを小学校と中学校が共有しておくことが非常に重要である。また、そのことを子どもたちや保護者の方々、地域の方々にも伝えていくことが必要であり、開かれた学校となっていくのではないかと。</p> <p>また、カリキュラムを縦軸で整理していくと、時間的な部分も生み出せるのではないかと思う。</p>
楳木委員	<p>天明校区では、今年音楽の乗り入れ授業を実施したり、可能な限り交流活動を実施したりしようとしている。校長同士で目指す姿等について共有し、天明地域の魅力・特色を活かしたものやSDGs教育を柱に今までやってきている取組をつなげていく方向でカリキュラムを作成していこうと考えている。2本目の柱が学力向上として学び方を学ぶという意味で、課題解決学習を貫いてはどうだろうかと考え進めている。</p> <p>各学校から代表が参加する授業研究会を実施し、その学び方を学ぶという指導者側の体制をしっかり作り、小中合同の授業研究会を実施していくのはよいと思う。各中学校区の取組と、熊本市全体としての取組を明確化していく必要があるのではないかと。</p>
古賀座長	<p>最後に3点、今日の話をもとめる。</p> <p>1点目は、小中一貫カリキュラムについてである。</p> <p>小中学校のどの先生、地域の人、どのような人材がいるのかを共通理解し、担当者として落とし込むことで、カリキュラムが整理され、見える化されてくるだろう。社会に開かれた教育課程として、どのように作り上げていくのが今回提示された資料の重要性である。</p> <p>2点目は、情報共有の大切さである。</p> <p>小中一貫教育を進めるときには、保護者・子どもたちへの説明をし、卒業した人や地域の人にも賛同を得て進めていくことが大切である。特に、Bグルー</p>

	<p>ブでは今後様々な可能性があるが、情報を共有するための、学校を超えた出会いの場の確保が必要である。</p> <p>3点目は、9年間を通した小中一貫教育目標についてである。</p> <p>複数の小中学校同士で、可能な限り学校教育目標を擦り合わせ、9年間でどのような子どもたちを育てたいかを先生方がみんなで話し合うプロセスが大事で、お互いと一緒に作り上げた教育目標となっていく。このことが、先生方の情報共有、子どものスタートとゴールをしっかりと見つめる力になるということである。これからは、義務教育を担うプロの先生を養成する、これからの教育改革の大きな柱だと考えている。</p> <p>ここで、議事進行を終えて、事務局にお渡しする。</p>
--	--

6 事務連絡

7 閉会